

ひとり、真鍋次郎・平清房(平清盛八男)が先祖といわれ、昭和四十五年六月に国の重要文化財に指定された。およそ四百五十年前(桃山後期頃)に建てられたものと推定されており、昭和五十三年に復元された。

三間取り型の原型を残す民家として建築学上高く評価されている。復元後十八年を経た平成八年十二月に屋根葺き替えが実施された。

所有者は真鍋家十六代目に当たるといわれる真鍋潤氏である。平成十三年二月からは毎月一日の朝に郷土の先哲尾藤二洲の学習会が開かれている。

【安德の窪・安德宮】

五士の一行が土釜にたどりついたものの、なおも安全な場所を求めて分け入り、この地に仮の宮居を建て、安德帝を守って半

年間住んでいたといわれる。平家遺跡保存会によってここに碑が立てられたり、

・ 安德の窪



ふもとの下谷八幡宮横には「安德の宮」がかさあげされている。

・ 安德の宮



【下谷八幡神社】

(上の宮・下の宮)

安德天皇を守りながら五士の一行が安德の窪ですごしていた時、天皇の安全と一族の武運を祈ってまつたといわれている。

・ 下谷八幡神社・上の宮



上の宮は仲哀天皇、神功皇后をまつており、正八幡宮と書かれた菊の御紋の入った石碑がある。

・ 下谷八幡神社・下の宮



下の宮は応仁天皇をまつている。川之江大岡八幡宮はこの切山の八幡宮から分霊されたも

のといわれる。平成十四年三月には由来碑を建立した。

【土釜神社・土釜薬師】

五士の一行が切山に潜入し、最初にたどりつき安堵した所といわれている。ここには古来から社が建てられていて、真鍋次郎・平清房か田辺太郎・平清国の子孫がまつられているともいわれている。

幕末から明治にかけて、山田井住民と、神体、神宝の争奪戦が続いた。

・ 土釜神社

